

東電福島原発大惨事の被害から子どもたちを守るために科学者・医療者の果たす役割は何か。

チェルノブイリーフクシマ ～ドイツの経験から学ぶ～

インゲ・シュミッツ-フォイヤハーケさんとセバスチャン・プフルークバイルさんを迎えて

日時：2012年6月28日（木）14:00～17:00（開場 13:30）

会場：キャンパスプラザ京都 2Fホール

（京都市下京区西洞院通塩小路下る／TEL：075-353-9111）

資料代：1,500円（当日参加可）

どなたでもご参加いただけます



Inge Schmitz-Feuerhake (インゲ・シュミッツ-フォイヤハーケ)

1935年生まれ。物理学と数学を学ぶ。1973年～2000年、ブレーメン大学の実験物理学教授。線量測定分野で研究、放射線防護と放射線源の健康への影響に特に焦点を当てた。80年～、積極的にドイツの放射線誘発白血病クラスターに関わり、ドイツ放射線防護協会の創設の一員となる。放射線リスク(ECRR)に関する欧州委員会の委員長。

Sebastian Pflugbeil (セバスチャン・プフルークバイル)

1947年生まれ。物理学者、ドイツ放射線防護協会会長。ECRR理事。1989年以後、ドイツ統一の過程の中で、暫定政府であった「円卓会議」で大臣として入閣。チェルノブイリ事故の諸結果についての専門家、数年間にわたり現場調査。1990年ベルリンにて市民団体「チェルノブイリの子どもたち」を創設、長年ドイツ・チェルノブイリ支援協会の理事を務める。原発周辺の子どもたちのがん発病率増加について研究調査。



《問い合わせ》

共催：市民と科学者の内部被爆問題研究会（松井英介 TEL：058-296-4038 FAX：058-296-3903）

核戦争防止国際医師会議京都府支部（京都市中京区七観音町 637 第41長栄カーニープレイス四條烏丸6F 京都府保険医協会気付

担当・乾谷【いぬいたに】 TEL：075-212-8877 FAX：075-212-0707 e-mail：info@hokeni.jp）

協力：核兵器廃絶ネットワーク京都